



下絵：越木岩縁起図 津戸直氏 (1999 年画)

越木岩縁起物語

待望の秋祭りが明日に近づいたある晩の事、神社から太鼓の練習の音が聞こえている。早くだんじりを引きたい、引きたいと思いながら少年は寝てしまい、そして不思議な夢を見たのです。

その夢は遠い遠い昔の景色が目の前に広がっていました。うっそうと茂った森の中には、大きな岩が見え、その森の北側には山並みが続き、半円形のおわんを伏せたような山が見えています。森から下の方へ目をやると、大きな池があり、そして松林に沿って右手の方へ目を移すと、広々とした海がきらきらと光って見えました。

すると何処からか白装束に金剛杖をついた、からす天狗が現れ、「おい小僧、お前は何処から来たのだ」と声をかけられました。

怖くなって逃げようとする、「何も怖くはない、俺と一緒に来い」と小高い丘の上に連れて行かれ、そしてその天狗が金剛杖をかざしながら語りはじめたのです。

「あの森の中の大きな岩はな、ずっとずっと昔から村人たちに崇められ、甑岩①と呼ばれている岩だ。甑というものはな、米をむす蒸し器のことで、正月の餅をつくときのセイロもその一種だ。ずっと昔は、米は炊かずに蒸して食べていたので、この岩がセイロに似て

いるところから甑岩と呼ばれるようになったのだ。このような大きいセイロでたくさんの米を蒸すことができるということは、米がたくさん収穫できますように、またその米で多くの人を養い、豊かな生活ができますようにという願いごと、つまり豊穰祈願ということだ。それで村人たちは願い事ばかりではなく、たくさんの米を作るためには田に引く水を確保しなければならないから、ため池をつくる必要があった。あそこに見える大きい池は一鍬池②と言ってな、その昔、弘法大師③と言う偉いお坊さんが、越木岩の農民に頼まれて掘ったそうじゃ、それがたったの一鍬ででき上がり、その土を積み上げたのがあそこに見える半円形の山で、甲山④と言われるようになったのだ。その後も毘沙門池や樋之池、北山池、栗林の池、古池などの池を農民が力をあわせてつぎつぎと作っていったのだ。

今ではあそこに見える一鍬池はもうなくなっており、埋め立てられて、お前たちが通っている北夙川小学校になっている。一鍬池のそばにある水車小屋⑤は、あの松林の夙川の上流にもたくさんあって、西宮の酒造りに必要な酒米を毎日毎日コットンコットンとついているのだ」とそんな話を聞いていると、にわかに空がかきくもり強い風が吹きだした。

すると今まできらきら輝いていた海が波立ち大波に乗って誰かがこちらへ近づいてくるではないか。よく見ると、大きな鯛に乗った

お内裏さまのような方が、釣り竿を肩に手には何か巻物のような物を持ってられる。

からす天狗が話を続けた。「あのお方はなあ、えびす様のお若いお姿で、遠い国からおもどりになったところで、弁天様⑥にみちびかれて、大波の上を大きな鯛に乗って、海から夙川を逆上って甌岩へむかわれようとしているところだ。

甌岩は先ほど話したように、穀物がたくさん収穫出来ますようにと言う願いと、子孫がどんどん増えて繁栄しますようにと言う願いをかなえてくださる女の神様でもあるわけだ。そこで、甌岩の中におられる姫神様とえびす様を、め合わせていっしょにお祀りしたいという事で、今弁天様がえびす様をちょうどおつれしたところだ。ただこの甌岩の中におられる姫神様はお姿を見た者がいないので、どのような姫神様かはだれも知らない。

えびす様はなあ、大昔の神話で古事記や日本書紀に書いてあるが、伊耶那岐命、伊耶那美命という神様の間に生まれた第一子で、天照大御神や月読命や須佐之男命と同じ兄弟で蛭子⑦と呼ばれ3才になっても足が立たなかったために、葦舟に乗せられて海に流されたのだ。そのような体が不自由でありながら遠い異国に流れ着いて、苦労に苦労を重ねて、立派に成長し、恵比寿様と名をかって、立派なお姿で帰って来られたというわけだ。

【このように、大変な障害を苦労して克服し、立派に成長されたので、福の神様と崇められるようになったのだろう。】

それで江戸時代になって越木岩神社⑧の本殿に蛭子大神がまつられるようになったというわけだ。

拝殿には、今見えているお姿のえびす様の絵馬が2枚も掲げられてあるぞ。一度神社に行ってみるといい。

ここ越木岩というところは、山の方からは弘法大師様のいろんな教えを受け、海の方からはえびす様や法然上人様の教えを受けて

昔から平和で信心深く豊かに過ごして来たと言うわけだ。」少年が、からす天狗に聞いた。

「それでは、おじさんはなぜそんな姿をしているのですか。」からす天狗が、答えて言うには、

「わしか、わしはなあ、このような山伏姿で山の中を歩き回るのが仕事でな、時には人に頼まれて雨乞いの護摩を焚くこともある。

今しがたも六甲山の、石の宝殿⑩で越木岩の村人に頼まれ雨乞いをしてきたところだ。この風も、えびす様を運び終えると、雨あらしに変わるはずだ。」

と言い終えたところで、そばに居たはずの、からす天狗がスーッと姿が見えなくなり、ピカッと光ったと思うと、ザーと雨が降りだしてきた。あわてて逃げ出そうと思ったが、どうすることもできず、もがいていると目が覚めた。すると家の外では雨が降っており、激しい雨音で目が覚めたようだ。明け方には雨もすっかり上がり、今日は待ちに待った越木岩の秋祭りである。

少年は、真新しいはっぴに手ぬぐいをお母さんから受け取り、秋晴れのいい天気になった空を、心うきうきと越木岩神社にのぼって行った。

拝殿の前には多くの人だかりがあり、記念すべき2000年に新しく出来上がった立派なだんじりが姿を見せていた。

鐘と太鼓が鳴り響き感激が頂点に達したころ、ふと、だんじりの後の見送り幕を見ると、昨夜、夢の中に現れた景色と全く同じ景色が描かれているではないか。こんな不思議な事もあるのかと思いながら、一つ一つの絵がらを夢の中のからす天狗の話を思い出しながら、いつまでもいつまでも飽きずに眺めていた。

そして、だんじりの後を追っかけて行った。

それからというものの、この少年はどんどん祭り好きになっていったそうだ。将来は、中学生になったら越木岩青年会ジュニア、そして高校を卒業したら越木岩青年会で活躍していることでしょう。